平成25年２月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成25年１月11日

上場会社名　　ネオス株式会社　　上場取引所　東
コード番号　　3627　　ＵＲＬ　http://www.neoscorp.jp/
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）池田　昌史
問合せ先責任者　（役職名）取締役兼執行役員企画部長　（氏名）中野　隆司　　ＴＥＬ　(03)5209－1590
四半期報告書提出予定日　　平成25年１月11日　　配当支払開始予定日　－
四半期決算補足説明資料作成の有無：　無
四半期決算説明会開催の有無　　：　無

百万円未満切捨て

１．平成25年２月期第３四半期の連結業績（平成24年３月１日～平成24年11月30日）

（１）連結経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年２月期第３四半期	4,927	7.8	303	△28.5	324	△23.4	△23	－
24年２月期第３四半期	4,571	19.3	425	21.9	423	21.5	151	△19.6

（注）包括利益　25年２月期第３四半期　△23百万円（－%）　24年２月期第３四半期　175百万円（－%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年２月期第３四半期	△301.99	－
24年２月期第３四半期	1,979.09	1,477.82

（注）24年２月期第３四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」（企業会計基準第25号 平成22年６月30日）を適用し、遡及処理しております。
（注）25年２月期第３四半期連結累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの１株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年２月期第３四半期	3,649	3,036	82.1	38,582.02
24年２月期	3,974	3,118	76.8	39,352.10

（参考）自己資本　25年２月期第３四半期　2,995百万円　24年２月期　3,054百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年２月期	－	0.00	－	450.00	450.00
25年２月期	－	0.00	－		
25年２月期（予想）				450.00	450.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：　無

３．平成25年２月期の連結業績予想（平成24年３月１日～平成25年２月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,650	10.1	600	11.8	600	12.3	30	△85.6	386.48

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：　無

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：　有
新規　－社　（社名）－、除外　1社　（社名）カタリスト・モバイル株式会社
詳細は、添付資料P.3「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧下さい。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①	会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	：　有
②	①以外の会計方針の変更	：　無
③	会計上の見積りの変更	：　無
④	修正再表示	：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	25年２月期３Ｑ	77,634株	24年２月期	77,622株
② 期末自己株式数	25年２月期３Ｑ	－株	24年２月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	25年２月期３Ｑ	77,629株	24年２月期３Ｑ	76,778株

※　四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は完了しています。

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況等の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 3
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 3
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 3
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 3
（４）追加情報 …… 4
３．継続企業の前提に関する重要事象等 …… 4
４．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 8
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 8
（５）セグメント情報等 …… 8

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間（自平成24年3月1日至平成24年11月30日）における日本経済は、停滞気味の個人消費、世界経済の減速等に加え、構造的エネルギー問題、貿易収支の継続的赤字等、依然、低迷した状態が続いております。しかしながら、2012年11月の衆議院解散に伴う政権交代により、新政権のデフレ脱却政策への取り組み期待等から、大幅な円安シフトが起こっており、日経平均株価が上昇する等、先行きへの期待感が表れてきています。

携帯電話市場においては、スマートフォンが総出荷台数の7割を占めるに至り、加えて、iPad mini、Kindle、Windows８タブレット等、新しい情報通信端末の市場投入が相次いでいます。情報通信サービス市場は、これまでの「携帯電話」や「パソコン」という概念だけでは語れない新しい時代に突入したといえ、次の時代を担うサービスやコンテンツ、アプリケーションへの移行期、変革期の様相を呈しています。

当社は、このような新時代への過渡期を大きなチャンスと捉え、積極的に事業の拡大を図っています。ソリューション事業においては、携帯キャリアが市場変化に対応して、通信・通話サービス事業者という概念から、より幅広いサービスプロバイダーへの転進を図りつつある動きに積極的に対応し、携帯キャリア自身によるエンドユーザー向けの様々なサービスの開発を多方面からサポートしております。また、スマートフォン時代における新たなプロダクト＆サービス事業の確立に向けて、コミック、キャラクター、ヘルスケアなど、従来、当社がフィーチャーフォンベースで提供してきたサービス基盤の再構成を行い、新しい形でそれらを提供することに注力すると共に、『DoodleDo』『LUX3D Music Player』『SMART アドレス帳』『Lock App System』『MatrixEngine』等、新しいサービスやアプリケーションの開発、展開を、積極的に繰り広げております。

これらの結果、当第３四半期連結累計期間の売上高は4,927,020千円（前年同期比7.8％増）、営業利益303,916千円（前年同期比28.5％減）、経常利益324,294千円（前年同期比23.4％減）となりました。売上高は前述の事業拡大努力により、順調に増加しており、これに伴って売上総利益も、前年同期に比べ、7.0％の増益となっていますが、スマートフォン時代に対応した企画営業体制や新規事業開発体制の強化により販売費及び一般管理費が増加し、営業利益及び経常利益は減益となっております。また、四半期純損失は当第１四半期連結会計期間に計上した特別損失等の影響により23,443千円となっております。

以下、事業別の動向について述べます。

＜ソリューション事業＞

当第３四半期連結累計期間におけるソリューション事業の売上高は2,893,595千円（前年同期比1.0％減）となりました。

スマートフォン端末が常態化する中、NTTドコモがポータルサービス「dマーケット」の拡充を積極的に図ったり、KDDIが定額スマートフォン向けサービス「auスマートパス」をiPhone向けにも拡張するなど、携帯キャリア自身が、独自のエンドユーザー向けサービスを活発に推進しており、当社はこういった動向にいち早く対応し、積極的にソリューション提案を推進しています。当期においても、2012年９月にサービスインしたNTT ドコモの写真・動画ストレージサービス『フォトコレクション』の開発をサポートしました。『フォトコレクション』は、顔やシーンをサーバー上で識別し自動でグループ分けする機能などを備えたクラウドサービスです。当社は、本サービスにおいてクライアントアプリとサーバシステムの開発を支援し、スマートフォン用アプリには、スムーズな３Ｄ描写とリッチで分かりやすいUI（ユーザーインタフェース）を実現するミドルウェア『MatrixEngine』を提供しています。

法人向けソリューションでは、当社が得意とするヘルスケア、メディカル業界向けのシステム開発やサイト構築、ＷＥＢマーケティング等の案件に加え、一般法人のスマートフォンサイトの構築やアプリ開発に引き続き注力しています。

＜プロダクト＆サービス事業＞

当第３四半期連結累計期間におけるプロダクト＆サービス事業の売上高は2,033,424千円（前年同期比23.4％増）と、スマートフォン事業の拡大によりフィーチャーフォンの落ち込みを補い、全体として大幅な増収となりました。

電子コミック事業については、電子書籍ビューワー『BS Reader』の導入サービスが200を突破し、スマートフォン分野での電子書籍サービスが着実に浸透しつつあります。2012年11月からは、国際規格であるEPUB形式にも対応し、『ComicDC』を利用したEPUBフォーマットのコンテンツ配信、閲覧を実現しました。

キャラクターサービス事業については、きせかえコンテンツサービスに加えて、ファンサイトサービスの強化を図っており、『We love Suzy’s Zoo』に続いて、アプリ・壁紙等を使い放題で提供する定額制サービス『LOVE♥水森亜土』を2012年11月にリリースしました。

ミドルウェア、アプリケーション分野については、主力のアニメーションメールエンジンに加えて、スマートフォンで拓ける新しい市場に向けて積極的な展開を行っています。

らくがきチャットアプリ『DoodleDo』は、新しいタイプの手書きコミュニケーションツールです。テンプレート画像や自分で撮った写真を背景に、スタンプを利用したり、スワイプ・タッチ操作で絵や文字を描いて、リアルタイム

で１on１のコミュニケーションが楽しめます。
フィーチャーフォンでの操作性や機能をそのままスマートフォンで実現したのが『SMART アドレス帳』です。フィーチャーフォンアドレス帳の「インポート機能」や「シークレット機能」、「誕生日通知機能」など、フィーチャーフォンでの操作性をそのまま体感することができます。
『おてがるメニュー』は、当社が独自開発した『Lock App System』を活用したランチャーアプリです。電源を入れるとすぐに利用頻度の高いメールやカメラ、インターネットなどの機能をワンタッチで呼び出すことができ、スマートフォンは難しいという方にも、簡単な操作性を実現しました。
これらのAndroidアプリの展開に加えてユーザーベースの拡がりに対応し、iPhoneへの取り組みも強化を図っています。当期においては、2012年10月より、ヘルスケアサービス『Karada Manager』のiPhone版「auスマートパス」対応サービスをリリースしました。アプリ配信においては、2012年10月より『LUX3D Music Player』のApp Storeでの展開を開始しています。

（２）連結財政状態に関する定性的情報
当第３四半期連結会計期間末の資産の部の合計は3,649,336千円（前連結会計年度末は3,974,753千円）と、前連結会計年度末に比べ325,417千円減少いたしました。当第３四半期連結累計期間の主な増減内容は以下のとおりであります。
流動資産につきましては、前連結会計年度末に比べ10,734千円増加し、2,354,123千円となりました。これは主に仮払法人税等の増加によるものです。
固定資産につきましては、主に無形固定資産が369,006千円減少したことにより、前連結会計年度末に比べ336,151千円減少し、1,295,212千円となりました。
当第３四半期連結会計期間末の負債の部の合計は612,850千円（前連結会計年度末は856,726千円）と、前連結会計年度末に比べ243,876千円減少いたしました。これは主に、未払法人税等や賞与引当金の減少によるものです。
当第３四半期連結会計期間末の純資産の部の合計は3,036,485千円（前連結会計年度末は3,118,026千円）と、前連結会計年度末に比べ81,540千円減少いたしました。これは主に、四半期純損失の計上による利益剰余金の減少によるものです。

（３）連結業績予想に関する定性的情報
平成25年２月期の業績予想につきましては、平成24年７月13日付「業績予想の修正及び特別損失の発生に関するお知らせ」において発表いたしました連結業績予想に変更はありません。
※上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況等の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
第２四半期連結会計期間より、カタリスト・モバイル株式会社は当社を存続会社とする吸収合併を行ったため、連結の範囲から除外しております。
また、特定子会社には該当しませんが、メディアキュート株式会社は当第３四半期連結会計期間において清算結了したため、連結の範囲から除外しております。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
（１株当たり当期純利益に関する会計基準等の適用）
第１四半期連結会計期間より、「１株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第２号 平成22年６月30日）、「１株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第４号 平成23年３月25日）及び「１株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」（実務対応報告第９号 平成22年６月30日）を適用しております。
潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、ストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。
これらの会計基準等を適用しなかった場合の、前第３四半期連結累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額の金額に与える影響はありません。

（４）追加情報

（会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用）

第１四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号　平成21年12月４日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号　平成21年12月４日）を適用しております。

３．継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はございません。

４．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成24年２月29日）	当第３四半期連結会計期間 （平成24年11月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,222,669	1,218,989
受取手形及び売掛金	800,389	685,838
仕掛品	93,014	59,439
その他	227,314	389,855
流動資産合計	2,343,389	2,354,123
固定資産		
有形固定資産	179,416	176,126
無形固定資産		
のれん	126,625	146,703
ソフトウエア	661,804	476,225
その他	253,287	49,782
無形固定資産合計	1,041,717	672,711
投資その他の資産		
その他	410,230	449,886
貸倒引当金	－	△3,512
投資その他の資産合計	410,230	446,374
固定資産合計	1,631,364	1,295,212
資産合計	3,974,753	3,649,336
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	220,826	215,186
未払法人税等	128,401	－
賞与引当金	200,623	122,497
ポイント引当金	9,975	7,010
その他	261,890	231,763
流動負債合計	821,718	576,458
固定負債		
資産除去債務	35,008	36,392
固定負債合計	35,008	36,392
負債合計	856,726	612,850
純資産の部		
株主資本		
資本金	949,048	949,248
資本剰余金	939,048	939,248
利益剰余金	1,168,399	1,110,026
株主資本合計	3,056,497	2,998,523
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,908	△3,247
その他の包括利益累計額合計	△1,908	△3,247
新株予約権	35,150	38,892
少数株主持分	28,286	2,316
純資産合計	3,118,026	3,036,485
負債純資産合計	3,974,753	3,649,336

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年３月１日 至　平成23年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年11月30日）
売上高	4,571,676	4,927,020
売上原価	3,184,886	3,443,206
売上総利益	1,386,790	1,483,813
販売費及び一般管理費	961,668	1,179,897
営業利益	425,121	303,916
営業外収益		
受取利息	857	108
為替差益	－	6,695
補助金収入	－	10,224
その他	477	4,284
営業外収益合計	1,335	21,312
営業外費用		
支払利息	440	70
株式交付費	413	－
売掛債権売却損	799	68
新株予約権発行費	－	782
為替差損	917	－
その他	420	13
営業外費用合計	2,991	934
経常利益	423,464	324,294
特別損失		
固定資産除却損	646	－
投資有価証券評価損	11,730	2,999
減損損失	－	347,727
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	3,021	－
持分変動損失	－	15,341
合併関連費用	－	15,145
特別損失合計	15,398	381,214
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	408,066	△56,920
法人税、住民税及び事業税	196,898	60,691
法人税等調整額	24,025	△95,346
法人税等合計	220,924	△34,655
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	187,142	△22,265
少数株主利益	35,191	1,178
四半期純利益又は四半期純損失（△）	151,950	△23,443

（四半期連結包括利益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成23年３月１日 至　平成23年11月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成24年３月１日 至　平成24年11月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失（△）	187,142	△22,265
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△11,620	△1,338
その他の包括利益合計	△11,620	△1,338
四半期包括利益	175,521	△23,604
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	140,329	△24,782
少数株主に係る四半期包括利益	35,191	1,178

（３）継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

（５）セグメント情報等
前第３四半期連結累計期間（自 平成23年３月１日 至 平成23年11月30日）
当社グループは、情報サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

当第３四半期連結累計期間（自 平成24年３月１日 至 平成24年11月30日）
当社グループは、情報サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。